

1 冷式抗体の間接クームス法への影響につ  
2 いて

3  
4 ○木村沙紀 山本喜則 五十嵐謙吾 長谷健二  
5 高階成美 丸山千恵子 木村豊 中村文隆  
6 (帝京大学ちば総合医療センター 検査部)

7  
8 [はじめに]当院は不規則抗体スクリーニングにおい  
9 て生理食塩水法は臨床的意義が乏しいことから省略  
10 していた。しかし昨年、日本輸血・細胞治療学会が  
11 発表した「講習会のための検査マニュアル(輸血のため  
12 の検査マニュアル)において、間接クームス法の反  
13 応増強剤を添加するか否かの判断に生理食塩水法の  
14 結果を用いる事が示唆され、当院でも準じた検査方  
15 法に変更した。今回、検査法変更前後の検査データ  
16 を解析し、冷式抗体の間接クームス法の影響につい  
17 て解析したので報告する。

18 [対象および方法]不規則抗体スクリーニング 10795  
19 件(生理食塩水法省略結果 5816 件、生理食塩水法実  
20 施結果 4979 件)の結果の比較検討を行った。

21 [結果]生理食塩水法を省略した期間と、行った期間  
22 とでは間接クームス法における抗体検出率に大きな  
23 差は認められなかった。しかし検出された抗体の種  
24 類は異なり、生理食塩水法の結果にて間接クームス  
25 法を選択することにより冷式抗体の影響は少なくな  
26 ることが示唆された。

27 [まとめ]生理食塩水法の結果に応じた間接クームス  
28 法を選択することによって冷式抗体の影響を少なく  
29 する事ができ、検査の効率も上がったといえる。

30 しかし、本方法は検査時間が大幅に延長する。輸血  
31 までの時間的猶予が無い場合には一時的に適合血を  
32 選択し、反応増強剤無添加クームス法の結果にて適  
33 合血の有無を再検討する必要があると考える。

34 0436-62-1211 内 1176

35  
36  
37  
38  
39